

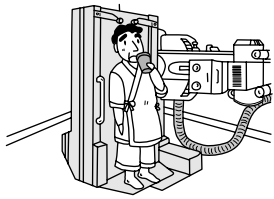
胃がんの早期発見は重要で、大変な課題と認識している。検査方法や助成金等について、国、県の動向や近隣市町村の状況を注視しながら、地元きぬ医師会と協議し、検討を重ねていきたい。

再質問

実施に当たって、国や県、近隣市町村の動向を見ながらということであったが、それは必要ない。常総市がどうするかということである。近隣の市町村がやっているからということではなく、胃がんになる人をならぬようにするためにどうするかということである。なる前の状況を調べ、胃がんの可能性のある人を見つけて、なる前に治療をする、予防が大切である。周りの市町村などは関係ない。市長と話し合い、今後良い方向にお願いしたい。

〈その他の質問〉

○道の駅の設置について
○新市長の政治家としての資質について



高崎坂東線及び財政再建の公約について、新市長に尋ねる
水野 昇 議員

質問

①高崎坂東線について、以前から諸事情知りつくしている市長であるので、認定事業として県と協議を重ね、早急に取り組みがあるのか聞きたい。

高崎坂東線については、合併以来、2回ほど見直し案を出させてもらった。常総市の鬼怒川の西地区には南北に通ずる県道が1本もなく、将来の私たちの子どもたちや孫たちの時代にまで、展望という点からも早期にこの道路を実現してもらわないと、私たちの目的とする一体感の構築の一端もできないのではないかと考える。

この高崎坂東線は、21年12月の定例会で7億4000万円の事業費で5年以内にやるということについて11対10で否決された。その反対した中に新市長も入っている。その後の23年12月に高崎坂東線の早期実現の会、八千数百名の署名を集めて出されたが、その時には賛成討論をしてきている。市長になられて早期に完成させるといふわけにはいかないと思うが、やる気があるのか無いのか、答弁を頂きたい。

再質問

②6月定例会の副市長、企画部長の答弁について尋ねる。6月議会での答弁で、茨城県への支援事業金として10億円が補助金、交付金として市に入ったわけではない。市の1事業について、県が優先的に入はしていないので答弁できないと言っているが、理解できないし、納得できない。

③財政再建との公約を掲げ市長になられたが、具体策を聞きたい。納得がいけない点が多々あるので、どこを財政再建と言っているのか聞きたい。

答弁(市長)

①高崎坂東線の必要性は認めており、1日も早く完成させたい気持ちでいる。議会の意思を尊重し、その方向で頑張っていく。

②合併支援金というお金ではなく、事業であり分割はできない。お金が入ってこないということでのやりとりがあったと理解している。

③短期的には歳出のカット、不要不急の資産の処分、入札制度の改革、維持管理費の削減、人件費の削減、監査制度の強化、ITコンサルタンの導入、適正な利用料徴収の

再質問

高崎坂東線は一体感の構築という大きな目的からも必要であり、認定を取ってやってもらいたいと考える。支援事業については将来の展望、地域のために聞いていっているので、理解していただきたい。

再答弁(市長)

議会としての最大公約数は、県道として早期にこの道路を完成したいということで理解している。24%の人が土地買収に同意していない現実があるのも事実である。支援事業

八つ。長期的には、歳入・税収を上げる、総医療費の削減のため予防政策に力を入れるの二つ。

の10億円は事業そのもので、5億円ずつに分けることはできない。



高崎坂東線

新市長の選挙公約と実行性について

中村 安雄 議員

質問

①にぎわい再生事業についての市長の考えについて。

にぎわい再生事業はまちづくり交付金と合併特例債を使う。事業を中止すれば返還させられる可能性がある。また、土地譲渡した地権者は、いろいろな計画を事業に合わせに行っている。道路もつくらないということになれば、損害が発生し、訴訟問題になることも考えていかなければならない。その辺をどう考えているのか。

②当市の財政状況の市長の認識について。

常総市は夕張市に次いで財政が悪いということであるが、全くそういうことはない。ないことをあつたことにするよいうなことはあつてはならない。常総市は大変危機的な状況にあると訴えたが、財政力も44市町村の中で上位にある。財政破たんに近いということを訴えてきたのであるから、誤解を招くと思うが、どう認識